新産業創出のための総合的支援情報誌「イシコ」

ISICO

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

Vol 16 2003 SUMMER



巻頭特集

もっと便利に、もっともっと親身に

新生ISICOは要チェック！

産学官連携情報
トライアングル
ものづくり先端技術研究センター

新コーナー
ビジネス･フロンティアに進路を取れ！
京町産業車輌(株)／(株)スミタ

サイエンスパーク発の最新情報
ISP REPORT
三谷産業(株)三谷サイエンスパーク研究所

筑波研究学園都市紹介
つくば石川交流FILE
清水 透 氏（独立行政法人　産業技術総合研究所）
オリエンタルチエン工業(株)

創造的企業ルポ
21世紀のチャレンジ
サイプレスソフト(株)／平松産業(株)
JPNインターネット／プラザころころ石川

情報化時代のIT活用事例
実例に学ぶ　IT戦略
三島石油(株)

インフォメーション・テーブル
ISICOスタッフ紹介
イシコ・トピックス

あなたのビジネスをインターネット上でサポート

DGnet URL ● http://www.isico.or.jp

巻頭特集

もっと便利に、もっともっと親身に

新生ISICO



発足から5年目の今年、ISICOは大きく変わりました。
多様な企業ニーズに確実に、迅速に応えるため、
企業振興部の新設や中小企業再生支援室の設置など、
より一層、支援メニューを拡充しました。
バージョンアップしたISICOをぜひ、ご利用ください。



理事長インタビュー

谷本 正憲 石川県知事

――ISICOのこの1年間を振り返って、支援の状況は。

ISICOの事業は、年を追うごとに浸透してきている。その一つの表れが、企業経営に役立つ情報を収集したり、オンラインで専門家のアドバイスが得られる「DGnet」へのアクセス数だ。平成13年度を約39%も上回る89万件以上のアクセスがあった。

もちろん、フェイス・トゥー・フェイスの支援にも力を入れてきた。起業支援セミナーや経営・技術講座の開催、研究開発から商品化にいたる各段階での助成など、厳しい経済状況下にあっても、新分野進出や技術開発に意欲的に取

は要チェック!

り組む中小・ベンチャー企業を対象に、積極的な支援を行うことができたと思う。

――産学官の交流・連携や共同研究について成果はどうか。

環境、ライフサイエンス、航空の分野で、産学官によるビジネス研究会を開催しており、マーケティング活動や事業化の可能性を探る検討会、セミナーなどを通して、新たな研究開発テーマの掘り起こしをしている。

共同研究開発プロジェクトでは、次世代型脳機能計測・診断支援技術の開発を進めており、試作機の完成などいくつかの研究成果が出た。

また、短期間で成果を出すコンソーシアム研究開発では、生薬を配合した抗加齢基礎化粧品の開発や炭素繊維織物技術を導入した光ファイバー用バックアップ電源の開発を行った。

このような支援を通じて、新技術や新製品も数多く生まれており、中には全国展開が期待される企業も出ている。小さな芽を大きく育てるという役割の中で、ISICOの支援が着実に実を結んできていると思う。

――今年度から取り組む新事業の内容と狙いは。

4月1日をもって、石川県中小企業振興協会を統合し、ISICOの中に「企業振興部」を新設した。これによって、これまで同協会が行ってきた設備導入支援や販路開拓支援がISICOの新たな支援メニューとして加わることになった。

また、これを機に、首都圏での販路開拓やビジネスパートナー発掘に力を注いでいきたい。このため、中小企業にとって首都圏での営業拠点となり、販路開拓の支援拠点となる「東京ビジネスサテライト」を麹町の紀尾井会館内に設置し、アドバイザーの配置や利用時間の拡大を図って、機能を充実させるほか、秋には、首都圏でバイヤーズミーティングやビジネスプラン発表会を予定している。

また、長引く不況のあおりで経営環境が悪化している中小企業の再生、事業転換への取り組みを支援するために「中小企業再生支援室」を設置した。専門相談員を配置し、個々の企業が抱える課題に応じた再生プログラムを企業とともに練り上げていきたい。

これらの事業によってビジネスの川上から川下、つまり研究開発から事業化、販路開拓にいたるまでのあらゆるニーズに対応する支援体制が整った。

――利用者へメッセージを。

4年前の発足当初から見ると人員は倍増した。総合支援機関として、これまで以上にきめ細かく、充実した支援メニューで中小・ベンチャー企業の皆さんを支援する。不況のトンネルは長いが、勝ち組と言える企業があるのも事実であり、フロンティア・スピリットあふれる前向きな企業と今後とも手を取り合って前進したい。

ＩＳＩＣＯの新事業　今年度からスタートしたISICOの新事業をぜひご利用ください。

中小企業の販路開拓をバックアップ

企業振興部を新設





新たな顧客の発掘、販路開拓などを担う企業振興部。

県外の企業に石川県の企業を紹介するためのカタログ



テクノフェアなど見本市への出展も支援。

ISICOでは、今年度から県中小企業振興協会を統合し、企業振興部を新設しました。新セクションは同協会の機能を担う部門で、大きく分けて「設備導入支援事業」と「取引開拓推進事業」の二つの事業を推進します。

「設備導入支援事業」は、創業や経営基盤の強化のために必要な設備の導入資金の貸し付けや割賦販売、リースなどを行います（貸付限度額など詳しい情報は、15ページ参照）。

「取引開拓推進事業」では、県内の中小企業のビジネスチャンスを拡大するため、企業に代わって職員やアドバイザーが全国の企業を訪問して、営業活動を行い、県内企業とのマッチングを試みます。

また、中小企業技術交流展の開催や全国中小企業テクノフェア・海外見本市への出展支援、企業交流懇談会や受注開拓懇談会の開催を通して、受注先の新規開拓や独自の製品、技術のPRをバックアップします。

経営の健全化を目指して専門家が後押し

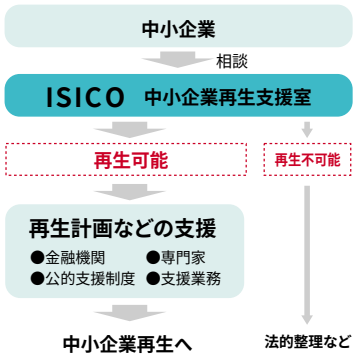
中小企業再生支援室を設置

当面の資金繰りなど財務上の問題はあるが、事業の将来性が明確な中小企業を対象に、経営の立て直しをサポートするために設けたのが、「中小企業再生支援室」です。

支援室には、金融機関出身者で中小企業診断士などの資格を持つ専任アドバイザー2人を配置しています。中小企業からの相談に基づき、商工会議所連合会や信用保証協会、経営コンサルタント、弁護士といった専門家とともに再生の可否を見極めます。

再生可能と判断した企業に対しては、適切なアドバイスや指導、経営改善計画の策定、制度融資や金融機関の紹介などを通して、企業の経営健全化を目指します。

※企業再生へのスキーム図



MESSAGE

ISICOの使命 果たすため目配り



ISICO副理事長
斉藤 直（なおし）

ISICOは、石川県が提示する施策のいわば実施機関であり、私たち職員には、起業家や中小・ベンチャー企業等を支援し、技術開発や経営革新といった成果が上がるように、一丸となって取り組む使命があります。これまで4年間、起業家やベンチャーの育成、産学官連携などで着実に積み上げてきた実績を土台に、今年度からは中小企業の再生支援や販路開拓といった新しい取り組みを始めました。企業の皆さんには、ぜひこれらの支援策を活用して羽ばたいてほしいと思います。ISICOの使命を十分全うできるよう、限られた予算、限られた人員を効果的に使って事業を進められるよう、目配りをしていきたいと思います。

総合プロデュース力を 発揮する年に



ISICO専務理事
浜田 靖

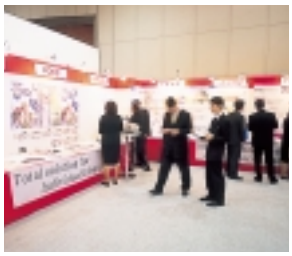
一口にISICOと言っても、中にはさまざまな組織、施策があります。特に今年は、県中小企業振興協会を統合したことで、産業創出だけでなく、受発注の拡大を通して既存企業を底上げする機能が加わりました。ISICOの組織は、例えば、「ベンチャー支援」「産学官連携」など担当が分かれていますが、新産業の創出を目指した産学官連携型の大きなプロジェクトでも、中小企業の持っている技術とどう連携させるかといった具合に、相互連携を大切にすることで、ますますISICOの持つ総合プロデュース力を発揮する一年にしたいと考えています。斉藤副理事長が組織の舵取り役とするならば、私は組織の憎まれ役として、地域の中小企業の立場から、組織活性化を促していく考えです。

ＩＳＩＣＯの新事業

IT先進国・韓国との交流が本格化へ

１０月、大邱（テグ）市の展示会に県内からも出展





大邱市の企業と県内の企業が商談会に臨み、お互いの技術やニーズを確認し合った。

e-messeに設けられたブースも盛況でした。

ISICOでは現在、韓国・大邱市の(財)大邱デジタル産業振興院(DIP)との交流を進めています。これは、昨年４月の北陸・韓国経済交流会議で、谷本正憲知事が韓国のベンチャー支援機関との交流を呼びかけたのをきっかけにスタートしたものです。

今後の具体的な交流の可能性を探るため、現在、テストプロジェクトを実施しており、その一環として４月８日から１３日にかけて、DIPの朴光珍院長を団長に、DIPの支援を受け、モバイル用ゲームソフト制作などを手がけるITベンチャー５社のスタッフが来日しました。

一行は、金沢都ホテルで県内約３０社の関係者を前に、独自の技術やサービスをプレゼンテーションした後、個々の企業との商談会に移り、熱心に提携の可能性を探りました。

また、４月１０日から行われた「e-messe kanazawa 2003」にも出展し、技術やサービスを紹介。来場者は興味深げに足を止めていました。１０月には、大邱市で行われるデジタル・コンテンツの展示会「DENPO」にISICOと県内企業が参加を予定しており、IT先進国である韓国の企業と県内企業との技術交流や人材交流に結びつけたいと考えています。

首都圏での販路開拓を強化

バイヤーズミーティング、ビジネスプラン発表会を開催



国内人口の約3割が集中する巨大マーケットの首都圏に向けて、県内企業の優れた技術や商品をPRするため、ISICOではこの秋、東京都内での「ビジネスプラン発表会」と「バイヤーズミーティング」の実施を予定しています。

ビジネスプラン発表会は、首都圏での販路開拓や事業提携を目指す県内の中小・ベンチャー企業が、自社の技術や商品をプレゼンテーションし、ビジネスパートナーを発掘することを目的とするものです。

バイヤーズミーティングは、大手百貨店や小売店、商社等のバイヤー・商品開発担当者を招いて行うもので、主に県内中小･ベンチャー企業が開発した一般消費者向けの商品の販路開拓を目指します。首都圏への売り込みはもちろん、商品やパッケージなどについて、消費者をよく知るバイヤーから直接アドバイスを受ける絶好の機会にもなります。

このほか、県やISICOの支援で県内の中小･ベンチャー企業が開発した新製品･新商品のうち、公的機関で購入が見込めるものについて、行政機関を対象にした発表会･展示会を開催します。

ものづくり先端技術研究センター

技術情報をデータベースで公開 ITで中小企業をサポート

ベテランの勘や経験に頼りがちな中小企業にとって、技術の壁やマンパワーの空洞化は大きな課題。つくばの産業技術総合研究所の一組織として昨年春に誕生した「ものづくり先端技術研究センター」は、加工を中心とした技術情報をデジタル化し、ITで企業を支援する活動を行っている。



4キロワットの国内最高レベルの高出力を誇るYAGレーザー加工機。高感度カメラで溶接や切断の様子を撮影が可能（写真はカバーを外した状態です）。



研究結果を公開し、企業と連携して、企業の競争力を高めたいと話すものづくり先端技術研究センター長の小島俊雄氏。



6月末に公開予定の加工技術データベースのトップページ。センターのトップページからアクセスできる。ホームページから技術相談も受け付けている。

トラブル解決のヒントなど企業に役立つ情報が満載

活動の柱となるのは、加工技術データベース「インターネット加工ハンドブック」だ。6月中のインターネット上での公開を目指しているこのサイトには、鋳造や鍛造、金属プレスなど15の加工法についての技術情報やトラブル解決法などを網羅。センター独自の実験結果はもちろん、全国の公設研究機関や企業などから提供された豊富なデータを利用しており、材料や加工条件を入力すれば所要時間などの数字が一目でわかる計算プログラムも用意している。

加工法別の印刷物は過去にも多くあるが、15の加工法のデータを一挙にデジタル化したのは国内で初めて。新データが次々と更新・追加されるのも紙媒体にはない魅力だ。いつでも照会できるこのデータベースは、中小企業にとって強力なサポーターになることは間違いない。

企業の情報と統合し自社技術を管理・集積

ただし、このデータベースはまだ途中段階。センターが最終的に目指しているのは、このインターネット加工ハンドブックに各企業が独自の技術を加えてカスタマイズし、自社の技術資産としてデータベース化することだ。小島俊雄センター長は、「中小企業の高いコア技術は競争力の源泉。個人の勘や経験ではなく、情報資産として集積・管理することで『ものづくり力』向上に役立つはず」と話す。各企業の情報と統合できるこのシステムは、来年度末の提供を目指している。

企業の現場感覚を大切に

ITを通した支援だけでなく、技術相談や共同研究もセンターが力を入れている分野。この2年間ですでに約20件の共同・受託研究が進行中だ。さらに、センターの研究者だけではカバーしきれない細かなサポートを充実させるため、センター内からベンチャー企業設立の準備も進んでいる。小島センター長は、「中小企業の現場はシビアな世界。われわれ研究者も企業と連携することで、現場感覚を研ぎ澄ましていきたい」と意欲を見せる。

ものづくり先端技術研究センター

茨城県つくば市並木1-2-1
TEL 029-861-7090 FAX 029-861-7129
http://unit.aist.go.jp/digital-mfg/

Business Frontier

ビジネス・フロンティアに進路を取れ！

ISICO SCOPE

平成15年度の石川ブランド認定製品の開発ポイントや今後の戦略を紹介します。

産廃処理からヒントを得た小型の選別機

『スクリーントロンメルミニ』



中の円筒形のふるいをとりかえることで、さまざまな大きさのものを選別できる。

スクリーントロンメルとは、工事現場などから排出する産業廃棄物を、焼却処理する前や破砕機にかけた後にふるいにかけ、不燃物等を取り除く選別機のことである。リフトや台車、荷物用エレベーターの製造・販売を手がける京町産業車輌では、産廃処理業者から依頼を受けたのをきっかけに、5～6年前からこの選別機を製造するようになった。

同社の製品は、円筒形のふるいの内部にらせん状の羽根を取り付け、回転させることで対象物を押し出すのが特徴だ。ふるいそのものに傾斜をつけて送り出す他社製品と比べるとスピードの調節が簡単で、作業がスムーズに進むことから、今では年間30台を売り上げるまでに成長した。

「スクリーントロンメルミニ」は、文字通りこの選別機を小型化したものだ。穀物類の整粒や食品残さを肥料に再利用する際の処理、使用済み蛍光灯の処理などに利用を見込む。円筒形のふるいを二重構造にしてヒーターを取り付ければ、対象物を乾燥することもできる。

スクリーントロンメルは、同社がこれまで作ってきた製品とは畑違いだが、厳しい経済環境が続く中、「毎年一つは新商品を送り出したい」（大野善久専務）という同社スタッフの熱い意気込みから製品化にこぎつけた。モノづくりへの情熱は衰えることなく、今後は、産学官連携にチャレンジしたいと意欲を燃やしている。

京町産業車輌（株）
金沢市京町10番30号
TEL 076-251-0111
FAX 076-251-0012
http://www.kyomachi.net

NEWS

県外企業がビジネスマッチング目指して視察

石川県企業交流懇談会



県内の中小企業の経営環境は回復の兆しはあるものの、依然、厳しい状況が続いています。このような状況の中、石川県とISICOは4月10日・11日、新たな受注獲得を目指し、過去最多となる県外大手・中堅発注企業31社の役員、発注担当部課長38名を招き、「石川県企業交流懇談会」を開催しました。

一行は10日午後2時から、県産業展示館2号館でISICOの斉藤副理事長から歓迎のあいさつを受けた後、「第16回石川県中小企業技術交流展」「第41回機械工業見本市金沢」「e-messe kanazawa 2003」を視察。その後、市内のホテルで県内受注企業98社106名、県関係者と情報交換の場を持ちました。

11日には、県外発注企業26社が県内受注企業58社を訪問し、工場の視察や商談を行いました。ISICOとしては、企業の交流が継続的に行われ、新規取引に結びつくよう、積極的にフォローを行っていきます。

未開の分野や未知の領域に新たに挑む ――
そんなビジネス・フロンティアを目指す企業に
販路開拓の事例、情報を紹介していきます。

独自のロック・システムで簡単な調整、固定を実現

『ワンタッチ調整式点滴スタンド』

スミタが開発した「ワンタッチ調整式点滴スタンド」は、軽くグリップを持って上下させるだけで自在に高さを調節し、固定できることが最大の特徴だ。

その秘密は、スミタが独自に開発したロック・システムにある。蛇腹状にした超小型のリンク機構が内部に組み込まれており、負荷をかける方向によって動かすことや固定することができる。このシステムによって、ネジなどを使わずに簡単に長さを調節し、好きなところで固定することができるのだ。

ちなみに、従来の点滴スタンドは、ネジを強力に締めつけることで固定していた。高さの調節が面倒なため、調節せずに使用した結果、時には医療事故につながるケースもあったという。また、ネジで締めつけるパイプは、丈夫なステンレスを使う必要があった。スミタの点滴スタンドは、その必要がなくアルミ製のパイプを採用した。その結果、従来品の7kgに比べ、4kgもの軽量化を実現した。

もちろん、点滴スタンドはスミタのロック・システムを使った一つの応用例に過ぎない。スミタでは、理美容院で使いいすのヘッドレストやヒータースタンド、伸縮自在なステッキなどにこのシステムを応用して製品開発を手がけている。このロック・システムは、日本とアメリカで特許取得済みで、ヨーロッパでも特許申請中である。同社の墨田雄二専務は、「長さや高さを手軽に調節するためのものなら、さまざまな利用が可能」と話し、今後も用途の開発を進めていく構えだ。



オリジナルのロック・システムを使って開発された点滴スタンド(上)とステッキ(右)。

(株)スミタ
加賀市八日市町ニ1-2
TEL 0761-74-4465
FAX 0761-74-4485
http://member.nifty.ne.jp/sumita/

新たな販路の開拓に向けて出展してみませんか？

中小企業テクノフェア2003

中小企業の優秀な技術、製品等を一堂に展示する「中小企業テクノフェア2003」が今年も開催されます。新規取引先の開拓やビジネスマッチング、最新技術動向の把握などに役立ちます。ぜひ、皆さんも参加してみませんか。

●大阪会場
会場／インテックス大阪2号館
　　大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102
日時／平成15年9月10日(水)～9月12日(金)
　　午前10時～午後5時(最終日は午後4時終了)
入場／一般公開(入場料無料)
出展規模／125小間(予定)

●東京会場
会場／東京ビッグサイト(東京国際展示場)東2・3ホール
　　東京都江東区東区有明3-21-1
日時／平成15年10月29日(水)～10月31日(金)
　　午前10時～午後5時(最終日は午後4時終了)
入場／一般公開(入場料無料)
出展規模／603小間(予定)

展示分類

(加工技術ゾーン)
1.素材加工
2.金属加工
3.機械加工
4.電気・電子機器加工
5.プラスチック加工
6.その他加工

(完成品ゾーン)
1.電子機器・ソフト関連
2.機械機具装置関連機械
3.環境機器関連
4.福祉・医療機器関連
5.ハウジング関連
6.その他

(地域・グループゾーン)
共同受注グループ(団体)、異業種グループ(団体)、組合、市町村、商工会議所、商工会

●お問い合わせ
(財)石川県産業創出支援機構
企業振興部
TEL 076-267-1140



ISP REPORT FILE．3

頭脳立県石川のシンボルとも言える「いしかわサイエンスパーク（ISP）」。パーク内に進出した企業に、進出の経緯や最新の取り組みについて伺います。



三谷産業（株）
三谷サイエンスパーク研究所
〒923-1211　能美郡辰口町旭台2-6
TEL 0761-51-0880　FAX 0761-51-0886
http://www.mitani.co.jp/

受身型の開発ではなく、戦略的な情報システムの開発を担う

情報セキュリティの認証取得で差別化

三谷産業は今春、アウトソーシング事業を対象としたBS7799：2002とISMS適合性評価制度ver1.0を同時に取得した。これらはいずれも、情報セキュリティ対策に対して与えられる認証で、同社が、顧客・自社情報の漏洩や不正使用、改ざんを確実に防ぐために、ハードとソフトの両面から徹底したリスク管理体制を構築していることを意味する。

目下、三谷サイエンスパーク研究所では、一昨年4月からスタートさせたアウトソーシング事業が順調に拡大している。これは、ユーザーの通信機器そのものを預かり運用・保守を請け負うなど、高度の情報セキュリティが求められる業務である。5月22日現在で、BS7799の認証取得企業は国内で40社、同じくISMSは143社にとどまっており、それだけに同社の今回の認証取得はユーザーにアピールする絶好の材料と言える。

ちなみに、石川県は全国でも最も有感地震の回数が少ない地域であり、いしかわサイエンスパークは地盤の安定した丘陵地に立地している。また、建物の一部には最新の免震構造を導入していることから、首都圏や東海地方からアウトソーシングされるケースが増えているという。



徹底した情報セキュリティー対策に対して与えられる認証を取得。

「POWER　EGG」が好調な伸び示す

そもそも、三谷サイエンスパーク研究所が開設されたのは平成11年9月のことである。同研究所は、従来の受託型ソフト開発ではなく、激しい技術革新に対応し、同社が戦略的に情報システムを研究開発するための拠点として位置づけられる。これまで、建設CALS対応ソフト「FMS」や社内情報を総合的に管理するグループウェア「POWER　EGG」などを開発してきた。

中でも、北陸先端大と共同研究したナレッジマネジメントのノウハウを元に開発した「POWER　EGG」は平成12年の販売開始から順調に売り上げを伸ばしている。「POWER　EGG」の最大の特徴は、生産管理や販売管理などユーザーの基幹システムと連携できる点だ。また、業務に最適のアプリケーションをオーダーメードでアドオンできる。もちろん、市販の外部システムとの連携も可能で、通常のグループウェアでは、スケジュール管理や掲示板、メールといった機能にとどまってっているのに対し、実務的なソフトと組み合わせることで業務の効率化を実現する。

同研究所では、プロジェクトごとに研究者を招集するシステムをとっており、現在は、今年度中に商品化が予定される乳がんの診断支援システムを開発中。米スタンフォード大やハノイ国立大などベトナムの3大学などとも連携する産学官の連携拠点にもなっており、今後の新たな事業展開に注目が集まる。

つくば石川交流
FILE

筑波研究学園都市にある研究機関の研究員の活動と
その研究員と共同研究を行った県内企業の取り組みを紹介します。

PEOPLE FILE . 05 ▶▶

清水 透 氏 （独立行政法人　産業技術総合研究所）

ふるさとの企業を技術でサポート



【産業技術総合研究所】
機械システム研究部門
循環型材料加工研究グループ
清水 透氏

独立行政法人
産業技術総合研究所

茨城県つくば市並木1-2
TEL 029-861-7183 FAX 029-861-7167
http://www.aist.go.jp/
toru-shimizu@aist.go.jp

塑性加工を専門とする清水氏は小松市の出身。撚糸工場や鉄工所が多くあるものづくりの町で育ったという。

目下、力を入れている研究は、金属射出成形の超臨界二酸化炭素を使った脱脂法である。現在、普及している加熱による方法に比べて脱脂時間を２０分の１に短縮できるため、大幅なコストダウンが見込める。また、加熱の必要がないので環境にもやさしい脱脂法だ。小さくて複雑な部品の製造に向いているので、IT関連や医療機器などの分野での活用が期待できる技術といえる。

郷里の企業である松任市のオリエンタルチエン工業から相談を受けたのもこの技術。同社との交流について、「地元の企業が私の技術に興味を持ってくれたことは、研究者としてうれしかった」と振り返る。中小企業は総じて高い意欲を持っているがマンパワーが伴わないことが多く、専門家の助言が必要と感じたという。「私は生産技術の研究者だから、現場を知らなければやるべき仕事がわからない。研究者自身も生の情報を必要としているんです」と、産学連携の必要性を強調する。他県や海外の企業ともつながりのある清水氏。石川の企業や技術者については、「他県や海外の企業は要求が厳しいのに対し、石川の人はずいぶん控えめ。私自身もそうなので、一緒にもっと前へ出て行かなくてはいけませんね」とエールを送る。

COMPANY FILE . 05 ▶▶

オリエンタルチエン工業（株）

最先端技術がスタッフの開発意欲を刺激

動力・搬送用チェーンをはじめとした金属部品を製造するオリエンタルチエン工業は今、産業技術総合研究所の清水透氏と連携し、金属射出成形に取り組んでいる。これは、IT機器や医療機器など、精密部品の需要に応えるためで、従来の切削加工に比べ、複雑で細かな部品の製造に適している。

金属射出成形にまったくノウハウがなかった同社では、ISICOに相談を持ち掛け、まずコマツから技術指導を受けながら開発を進めた。さらに、昨年６月、ISICOから金属射出成形の専門家として紹介されたのが清水氏だった。「最先端の技術にふれることは、開発スタッフのいい刺激になった」と、澤守忠開発部次長が話すように、これまでに2回、清水氏を招いて講座を開いたほか、産業技術総合研究所を視察し、つくばの技術力を積極的に吸収。県から中小企業経営革新支援法の承認も受けた。現在はすでに試作段階に入っており、今年度中には金属射出成形による生産を開始する。

今回のシステムには、清水氏の研究成果で、生産スピードを飛躍的に向上させる超臨界二酸化炭素による脱脂法は使われてはいないが、次のステップとしてこの手法を用いた新システムの開発に乗り出す予定だ。同社では、今後も清水氏との定期的な交流を図り、技術革新を進めていく。



【オリエンタルチエン工業】
開発部次長 澤守 忠氏

オリエンタルチエン工業（株）

松任市宮永市町４８５
TEL 076-276-1155
http://www.ocm.co.jp

CHALLENGE
21世紀のチャレンジ

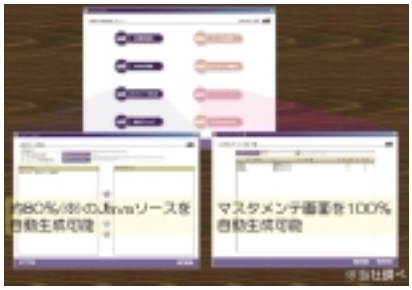
ベンチャースピリットに触れる。

ベンチャー

Webを自動作成するツールを開発・商品化
サイプレスソフト(株)

ソフトウェアの開発を手掛けるサイプレスソフトのWebアプリケーション作成ツール「Cyphon（サイフォン）」が、平成15年度の「石川ブランド」に認定された。同ソフトはWebを利用する電子カタログなど、すべてのアプリケーション開発の生産性を飛躍的に高め、迅速な開発を可能にするツールだ。すでにこのツールを使って構築されたWebはあらゆる分野で採用されており、操作性などで高い評価を得ている。このソフトは、同社が平成11年にプログラミング作業の時間を短縮するために作った社内用ソフトで、13年に石川県最先端IT活用技術開発事業に認定されたのを機に商品化した。開発では、Java言語を採用しており、開発当初はJavaに関する日本語書籍が少なく、英語の書籍を訳してプログラミングする作業を余儀なくされた。

そのため、誤った解釈によるエラーが頻発し、何度もやり直したという。同社は、このツール以外にも幼稚園と保護者をWebでリアルタイムにつなぐシステムなど、ユニークなビジネスモデルを複数展開しており、堀江浩一代表取締役社長は「これからは上場企業と共同で始めた新たなWebビジネスに力を注いでいく」と、株式の店頭公開を視野においた戦略を描く。



■ 本社　金沢市割出町629-1
TEL076-238-5773
■ 代表者　堀江　浩一
■ 設　立　平成10年3月
■ 資本金　4300万円
■ 社員数　17名（パート含む）
■ 事業内容
ソフトウェアの開発・販売、業務合理化およびコンピュータ利用に関するコンサルタント業務、インターネット（Webアプリケーション）に関するコンサルタント業務、e－ラーニングシステムの企画・販売
●http://www.cyp.co.jp

新分野進出

高機能フィルムを軸に経営革新を目指す
平松産業(株)

合繊の産地だった北陸全体の生産量が最盛期の3分の1にまで落ち込む中、ナイロンやポリエステルの染色・プリント加工を手掛ける平松産業では、自社開発した「ルストレFGX」のラミネート事業で経営革新を図っている。

ルストレFGXとはさまざまな生地に貼り付けられる高機能フィルムのことで、厚さ30から35μmのポリウレタン樹脂に0.3から3μmの均一な気孔が無数に並ぶ。フィルムそのものは防水性や防寒性に優れ、さらに微多孔から汗などの湿気が常時放出されるため、従来にはない高い透湿性を付加することができる。

平松産業では平成13年、本社敷地内にルストレFGXの製造とラミネート事業専用の新工場を建設した。スポーツアパレル向けを中心に売り上げを伸ばし、稼働2年目の昨年2億6千万円だった売上高は、今年上半期だけで3億1千万円に達している。

「3年前までは染色加工だけの企業だったが、今では染からラミネートまでを自社で行える。染色とラミネートを2社に別々に発注するよりも、当社にトータルで任せてもらった方が、価格を抑えることができる」と平松伸康社長は自信を見せ、染色加工の受注拡大にも大きな期待を寄せる。



■ 本社　能美郡根上町浜町ヌ161-4
TEL0761-55-0626
■ 代表者　平松　伸康
■ 設　立　昭和40年6月
■ 資本金　1億6000万円
■ 社員数　130名
■ 事業内容
ナイロンやポリエステル織物のプリント加工、機能加工、ボンディング・ラミネート加工、介護用品の製造販売など
●http://www.hiramats.co.jp
●http://www.rustore.info

産業構造の高度化、急速な技術革新が進む中にあって、企業にとってはビジネスチャンス獲得のために新たなチャレンジが求められています。生き残りをかけ、独自の取り組みを見せる4社を紹介します。

SOHO

企画力と人的ネットワークで挑む
JPNインターネット

「きちんとした企画が提案できれば仕事は尽きない」。こう断言する山本寛修氏は4年前にJPNインターネットを起ち上げ、Webを活用したマーケティングプランの立案やWebサイトの構築・運用代行・コンサルティングを手掛ける。山本氏が企画するWebサイトは、顧客リストの作成を目的としたメール機能を組み込むなど、戦略性を持っていると評価も上々だ。

しかし、起業当初は、飛び込みで営業をかけても相手にされず、1年間は厳しい状況が続いたという。その局面を打開するきっかけが、SOHOの集まりで培った人脈だった。誘いを受けて何気なく参加した会合でSOHO仲間と交わり、専門外の依頼をもてあましている現状を知る。それ以来、積極的にいしかわSOHOプラザクリエーションオフィス（金沢市鞍月）を訪れ、約20人の仲間と仕事を紹介し合える信頼関係を築いた。

その経験を踏まえ、平成12年にSOHOの営業活動を支援する目的で相互扶助グループ「イースタイル石川」を発足させた。同グループでは、SOHO間で知識や労働力を補完する役割を担っている。今後、大きなプロジェクトが受託できるよう、共同受注の体制を構築していく考えだ。



■ **本社**　金沢市長田1-7-21越田ビル3F
TEL076-234-5554
■ **代表者**　山本　寛修
■ **設　立**　平成11年1月
■ **社員数**　1名
■ **事業内容**
eメールおよびWebマーケティングプランの立案、Webサイトの構築・運用代行・コンサルティング、Webサーバー・ホスティングサービス、インターネット環境・LAN環境の構築、パソコン講師の派遣
●http://www.jpn-inter.net

異業種交流グループ

異業種交流で生まれた成果をEコマースに展開
プラザころころ石川

さまざまな異業種交流から生まれた商品や技術をインターネットを通じて売る。そんなアイデアを実現しようと今年4月に結成されたのが「プラザころころ」だ。きっかけとなったのは、異業種交流グループの活動を支援する石川県ニュービジネス創造化協会（以下、ニュー創協）会長の森岡吉男氏の呼びかけだった。その呼びかけに、大手通信企業でインターネット関係のコンサルティングやシステム構築に関するキャリアを積んだ鈴木艶子会長（写真）をはじめ、webや情報機器関連の8社が賛同した。

現在、プラザころころ石川では、ニュー創協の会員からインターネットを使って売りたい商品や技術を募っており、7月中旬をめどに、その中のいくつかをホームページに掲載し、ネットビジネスとして展開していく。

ホームページの制作にあたって鈴木会長は、「不景気でも売り上げが見込める衣食住に関するものを健康・文化・環境を重点テーマにラインアップしたい。“ 現場現物主義 ”を大切に、積極的に自分の目で確かめ、商品の良さを伝えていきたい」と話す。さらに今後は、全国の異業種交流グループが開発した商品やニュー創協が交流を進める台湾の台南県の特産品などの取り扱いも視野に入れていく考えだ。



■ **事務局**　金沢市茨木町59-1
TEL076-234-0090
■ **代表者**　鈴木艶子
■ **設　立**　平成15年4月
■ **構成員数**　8社
■ **事業内容**
ホームページ制作
●http://www.yumenoichi.com

INFORMATION TABLE

インフォメーションテーブル

起業・新分野進出のほか、経営や技術の高度化などに役立つ情報を紹介するページです。

セミナー

経営力UP、技術力UP等に役立つセミナーのご案内です。

日程	テーマ	場所	時間	費用	お問い合わせ先
6月13日(金)	■ **シンポジウム** 「高速ネットワーク時代の遠隔医療ーその展望」	ホテルイン金沢	12：50～17：00	無料	北陸情報通信月間2003 実行委員会事務局 TEL 076-263-6243
6月20日(金)	■ **産業大学講座** 「珪藻土の吸放湿壁材への利用」	トライアルラボ 第2研修室	13：30～17：00	1,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108
6月25日(水)	■ **産業大学講座** 「全自動短尺整経機の技術」	トライアルラボ 視聴覚室	13：30～16：30	1,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108
7月 2日(水) 3日(木)	■ **ITユーザ養成コース** 「MS-Access2000 アプリケーション開発（基礎編）」	県ソフトウェア 研修開発センター	9：00～16：00	32,000円	県ソフトウェア研修開発センター TEL 076-267-8000
7月 8日(火) 8月 1日(金) 9月 3日(水)	■ **ITユーザ養成コース** 「ITを駆使した ビジネス能力強化研修コース」	県ソフトウェア 研修開発センター	9：00～21：00	54,000円	県ソフトウェア研修開発センター TEL 076-267-8000
7月10日(木)	■ **環境管理・監査制度 (ISO14001）対応講習会**	県地場産業振興センター	13：00～17：00	無料	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1001
	■ **産業大学講座** 「発明的問題解決のためのTRIZ方法論入門」	トライアルラボ 第2研修室	13：30～15：30	1,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108
7月15日(火) 8月 7日(木) 9月17日(水)	■ **ITユーザ養成コース** 「営業マンのための提案企画、 プレゼンテーション能力の養成編」	県ソフトウェア 研修開発センター	9：00～21：00	54,000円	県ソフトウェア研修開発センター TEL 076-267-8000
7月24日(木) 9月12日(金)	■ **ITユーザ養成コース** 「経理担当のためのファイナンス、 事業プラン企画能力の養成編」	県ソフトウェア 研修開発センター	9：00～21：00	38,000円	県ソフトウェア研修開発センター TEL 076-267-8000
7月26日(土)	■ **科学教育学会27回年会** 金沢大会　特別講演	金沢工業大学	13：00～15：00	無料	金沢工業大学研究支援機構 TEL 076-294-6719
7月29日(火) 30日(水)	■ **ITユーザ養成コース** 「MS-Access2000 アプリケーション開発（応用編）」	県ソフトウェア 研修開発センター	9：00～16：00	32,000円	県ソフトウェア研修開発センター TEL 076-267-8000
7月30日(水)	■ **容器包装リサイクル法対応講習会**	県地場産業振興センター	13：00～17：00	無料	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1001
8月 5日(金)	■ **建設リサイクル法対応講習会**	県地場産業振興センター	13：00～17：00	無料	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1001
8月22日(金)	■ **土壌汚染対策法**	県地場産業振興センター	13：00～17：00	無料	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1001

「DGnet」と「いしかわSOHOプラザ」がリニューアルしました。



http://www.isico.or.jp/



http://www.isico.or.jp/soho/

ISICOが運営する産業創出のためのポータルサイト「DGnet」が4月1日にリニューアル！トップページが、シンプルでより見やすく利用しやすいデザインに変わりました。さまざまな情報をキーワードを使って一括検索できる「ワンストップ情報収集デスク」やオンラインで専門家のアドバイスが得られる「技術相談デスク」など、便利な機能を満載しています。

また、SOHOと企業の橋渡し、SOHO支援の情報提供を行う「いしかわSOHOプラザ」も同時にリニューアルしました。SOHOがオンライン登録によって自らの情報を発信することができるほか、SOHOを利用したい企業からの発注情報が掲載されるなど、メリットいっぱいのホームページです。ぜひ、両サイトをご利用ください。

設備資金貸付事業・設備貸与事業・モノづくり等設備貸与事業

平成15年度、石川県産業創出支援機構では、以下の貸付・貸与事業を実施しています。

設備資金貸付

【内容】　創業・経営基盤の強化に必要な設備資金の1/2以内を長期・無利子で貸付
【従業員】　50人以下(製造業は21～50人、商業・サービス業は6～50人特認)
【貸付限度額】　50万円～4,000万円(特例25万円～6,000万円)
【利息】　無利子
【期間】　7年以内(うち据置期間半年または1年以内)
※保証人必要。貸付金額1,000万円超の場合、原則として物的担保が必要

設備貸与(割賦・リース)

【内容】　創業・経営基盤の強化に必要な設備をISICOが代わって購入し、長期・低利で貸与(割賦またはリース)
【従業員】　50人以下(製造業は21～50人、商業・サービス業は6～50人特認)
【貸付限度額】　100万円～6,000万円
【利息】　割賦損料／年2.75%(実質金利2.00～2.25%)
リース料／月1.408%(7年)～3.006%(3年)
【期間】　割賦／7年以内(うち据置期間半年または1年以内)
リース／3～7年(設備引渡の翌月より、毎月自動振込)
※保証金10%(割賦制度)。原則として保証人のみ

モノづくり等設備貸与(割賦)

【内容】　創業・経営基盤の強化に必要な設備をISICOが代わって購入し、長期・低利で貸与(割賦)
※ただし、次のいずれかに該当する企業であること
●モノづくり再生支援プログラム対象企業
●経営革新支援法等承認企業　●地域貢献型企業
【従業員】　製造業は300人以下 卸売業・サービス業は100人以下 小売業は50人以下
【貸付限度額】　100万円～6,000万円
【利息】　割賦損料／年2.75%(実質金利2.00～2.25%)
【期間】　割賦／7年以内(うち据置期間半年または1年以内)
※保証金10%(割賦制度)。原則として保証人のみ

さらに、利子補給を実施します。
●IT(情報技術)分 0.75%　●モノづくり再生支援分 0.75%
●一般分 0.50%
※平成15年度設備貸与制度等を利用して、平成16年3月末までに設備を導入した企業が対象です。

平成15年度研究開発助成金

県内の中小企業が取り組む新製品、新技術の研究開発に必要な経費の一部を助成します。

【公募期間】
平成15年7月1日(火)～8月4日(月)【予定】
【助成対象】
①新製造分野②生活関連分野③情報通信分野④環境関連分野⑤医療福祉分野⑥新素材分野⑦バイオ分野における新製品・新技術の研究開発事業

【助成金交付の対象となる経費】
①原材料費②構築物費③機械装置費④器具工具費⑤外注加工費⑥技術導入費⑦直接人件費(ソフトウエアに開発に要する直接人件費のみ)
【助成限度額】
助成対象経費の2分の1の額を限度とし、最高200万円以内。

【問い合わせ先】
(財)石川県産業創出支援機構
TEL 076-267-1001

いしかわクリエイトラボ入居者募集



いしかわサイエンスパーク内のインキュベート施設・いしかわクリエイトラボでは、現在、入居企業を以下の通り募集しています。

■ 募集区画
インキュベータ(5㎡・25㎡)、レンタル・ラボ(50㎡)
■ 応募資格
(1)インキュベータ
●新分野への進出、技術開発など、創造的企業活動を行う中小企業
●独自の事務所・研究室が持てない小規模企業
●創業まもない中小企業、これから起業を目指す意欲ある方
(2)レンタル・ラボ
●研究開発に取り組むすべての企業

■ 利用料金
●賃貸料【インキュベータ】
1㎡あたり2,000円／月
【レンタル・ラボ】
1㎡あたり3,000円／月
●共益費　1㎡あたり500円／月
●保証金　月額賃貸料の2カ月相当
■ 利用期間
原則3年以内(必要な場合だけ2年延長可)
■ 入居者特典
●高速インターネット(100Mbps)常時接続無料
●24時間365日利用可能
●ISICOによる情報提供
●無料駐車場
●北陸先端科学技術大学院大学との共同研究の場合は、大学の設備も一部利用可能

【問い合わせ先】
(財)石川県産業創出支援機構
サイエンスパークオフィス
TEL 0761-51-0122

シリーズ第1回

実例に学ぶ IT戦略

ITをビジネスに生かすためのポイントは何か。
IT導入の参考としていただくため、
ビジネスにITを積極的に活用している事例をご紹介します。

三島石油（株）

小松市問屋町25番地
TEL 0761-22-3311 FAX 0761-21-7715
http://www.mishimaoil.jp/





ガソリンスタンドの経営にもIT化の波が確実に押し寄せている。

本社からの連絡、他店の売り上げ状況などをパソコンでチェックする。

グループウェアとCRMで経営効率をアップ

POSシステムを利用して適切なセールストークを展開

石川県内で直営、フランチャイズ含め40店のガソリンスタンドを展開する三島石油。同社のIT化の歴史は、昭和50年代前半までさかのぼる。

当時は、ガソリンスタンドにPOSシステムが導入され始めた時期であり、三島石油でも社内にオフコンを設置し、これに対応した。

商品の種類や数量、価格などのデータを自動的に収集できるほか、現在では、オイル交換や車検の時期といった顧客情報を管理することができ、給油時に適切なセールストークを展開できるようになっている。価格競争の激化で淘汰が進む業界にあって、総務部副統括マネージャーの山下憲章氏は、「ガソリンスタンドの差別化はサービスしかない」とデータの有効活用をスタッフに説く。

売り上げ情報を共有することで競争意識の向上につながる

POSシステムは便利なシステムである。しかし、石油元売り各社が販売店用に開発したという性格上、三島石油のように複数の直営店をマネジメントするための機能は欠けていた。

そこで、同社では5年前に全直営店にパソコンを設置し、本社と店舗とをネットワーク化。その上でグループウェアを導入し、社内の情報共有化を図った。

ガソリンスタンドの場合、本社から電話で指示を伝えようとしても来客中で出られないことも多く、グループウェアのメール機能を利用することで、各店に確実に情報を伝えることが可能になった。

また、各店の販売データなども、あらかじめ作っておいたフォーマットに書き込んでもらうことで、本社で簡単に集約できるようになった。店の売り上げデータを共有することは、直営店同士の競争意識の向上にもつながったという。

さらに、昨年にはCRM※用のパッケージソフトを導入した。これは主に、工場など法人向けに石油製品を販売する営業スタッフのためのもので、日報や商談内容、顧客情報を一元化し、社長をはじめすべてのスタッフが閲覧できるようになり、営業状況の確認や営業マンへの指示がスピーディーになった。

順調に進む三島石油のIT化だが、スタッフの中にはパソコンを触ったこともない年配の人もいて、導入メリットがなかなか理解してもらえないなど、苦労もあった。同社の場合、社長がIT化推進の旗振り役を務め、「トップダウンで進めたことがスムーズにIT化を成功させる鍵になった」と山下氏は話す。

三島石油では今後、グループウェアとCRM統合を視野にさらにIT化を進める考えだ。

※CRM（Customer Relationship Management）=企業が顧客と長期的な関係を築くために、取引や交渉の履歴などをデータベース化し、経営戦略に活用する手法の総称。

TOPICS
イシコ・トピックス

最新のIT製品やサービスを紹介
e-messe kanazawa 2003

今年で18回目を迎える「e-messe kanazawa 2003」が4月10日から3日間、県産業展示館1号館で開催され、出展企業や団体が最先端技術を駆使したIT製品や多様なサービス、システムを展示・紹介し、この間、約47,000人が来場した。

ISICOも会場の一角にブースを設け、ビジネス創出のポータルサイト「DGnet」をはじめ、バーチャルモールや特許電子図書館など、ITを活用したサービスを紹介したほか、SOHO支援の一環として出展しているSOHOコーナーでは、新たなビジネスソフトやグループ活動を紹介した。

今回は、ISICOが交流を進めている韓国・大邱デジタル産業振興院からも5社が出展し、韓国が誇る先端技術の一端をアピールした。

また、2号館では、ISICO主催の「石川県中小企業技術交流展」が開かれ、出展した53社と3団体が日頃の技術開発の成果を見せ、3号館の「MEX金沢2003」とともに、来場者の関心を集めた。



DGnetなどISICOのサービスにも大きな関心が寄せられた


53社、3団体が出展した中小企業技術交流展


SOHOも個々のビジネスプランをアピールした

日韓企業が協力しあって成果を
韓国大邱DIPの一行が谷本知事を表敬訪問

「e-messe kanazawa 2003」に出展するため石川県を訪れていた韓国・大邱デジタル産業振興院の一行が4月9日、県庁を訪れ、谷本正憲知事を表敬訪問した。団長を務めた朴光珍院長が、「e-messe への出展をきっかけに大きな交流の輪にしていきたい」と話すと、谷本知事は「今回は小さな一歩かもしれないが、今後大きく育てていきたい。一方通行にならず、お互いが協力しあって成果を出しましょう」と応じた。一行はこの後、県内企業との商談会やe-messeへの出展を通して、自社の独自技術をPRした。


会見は終始なごやかな雰囲気で進んだ

商工労働部部長に岡田氏 同次長に山沢氏
石川県人事

石川県の平成15年度人事異動で、商工労働部長に参事兼企画開発部次長の岡田靖弘氏(写真左)が就任した。また、商工労働部次長(兼企画調整室長兼中小企業再生・事業転換支援対策室長)には総務部次長兼秘書課長の山沢康志氏(写真右)が就任した。




財団法人
石川県産業創出支援機構
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

●お問い合わせは
TEL:076(267)1001
FAX:076(268)4911
〒920-8203 石川県金沢市鞍月二丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館1階
URL http://www.isico.or.jp
E-mail info@isico.or.jp

編集後記

ISICOは、今年度から設備貸与や販路開拓を担う企業振興部を設置し、より広く、さまざまな企業ニーズに応えられるよう頑張っていきます。お気軽にご相談下さい。

[発行月] 2003年5月(年4回発行) [発行所] 財団法人 石川県産業創出支援機構 [編集協力] ライターハウス／金沢市問屋町1丁目75番地

古紙配合率50%再生紙を使用しています